

①色々な学級の授業を見学したり、実際に授業を行う中で、学級によって生徒の様子や雰囲気が違うことがはっきり分かりました。体育だと特に、活動に取り組む姿に違いがあり、同じ内容でもその学級に合わせた授業づくりをすることに難しさを感じました。私は1年生女子のマット運動の授業を行ったのですが、恐怖心から活動に取り組めない生徒だけでなく、中には「できるからしない」という生徒もいて、生徒の動きを止めることよりも、取り組まない生徒を動かす難しさを実感しました。それと同時に、教師の声かけの仕方やアドバイスの仕方次第で、生徒のやる気を出すこともできるということに気づきました。また保健や道徳の授業も行う中では、手を挙げる生徒に偏りが見られて、発表する場の作り方に難しさを感じました。机間巡視をする限りでは、全ての生徒が意見や考えを書いていたので、その多様な意見や考えを、教師がどのように引き出すかが大切であると思いました。50分の授業の中では、全員の意見を聞きたくても各発問に対して1人ずつ発表するということは難しいので、グループやペアで意見交流をする機会を取り入れ、全ての生徒が参加できる授業にする必要性を実感しました。また授業を行う上では生徒と交流を深めておくことで、発言しやすい雰囲気や明るい雰囲気が作れて、積極的に授業に取り組むようになることに気づきました。実際に授業を行うと、指導案を作る際に予想していた生徒の反応よりも多様な意見や考えが出てきて、生徒から学ぶことがたくさんありました。最初の頃は体育の授業で説明をする際に、伝えたいことをまとめられていないまま「あれもこれも」とたくさん伝えてしまっていて、やるべきことが明確になっていなかったもので、理解していない様子が見受けられたり、後から質問が出てしまう状況になってしまいました。しかし全てを言うのではなく伝えるべきポイントを簡潔にして伝え、あとは生徒に考えさせて気づかせることを大切にすることで、やるべきことが明確になっただけでなく、生徒が試行錯誤しながら、取り組む姿が見られて、説明の仕方を学ぶことができました。

②担当する学級の生徒と交流していく中で、「学習計画ノート」という、日記のようなものを毎日、全員分チェックさせていただいたのですが、そこでは普段は大人しい生徒でもその日の出来事や絵をたくさん描いてくれたり、他の生徒も色々なことを書いてくれていて普段とは違った一面を見ることができました。生徒の正直な感情や思いが伝わってきて、このノートを通して心で会話ができていく気分で嬉しかったし、毎日このノートでやりとりをすることがとても楽しかったです。またノートにしか書けないこともあると思うので、直接コミュニケーションをとることももちろん大切ですが、このようなノートでのやりとりもとても大切なコミュニケーションの場であると感じました。体育の授業では運動が苦手な生徒ももちろんいたのですが、周りの生徒にも補助してもらいながらその子が今できることを一緒にしたこと、少しずつでもできることが増え、生徒の成長を身近に感じられたことがとても嬉しかったです。また生徒に注意することの難しさも実感しました。交流を深めていく中で生徒を注意すべき場面が何度ありましたが、注意の仕方に戸惑いました。しかし教師と生徒としての良い関係を築くためには、交流するときはたくさん交流する、注意するときは注意するというメリハリをつけて接することが大切であることを学びました。

③毎日、職員朝礼に参加させていただき、そこでは学年ごとで生徒のことやトラブルなど、少しのことでも情報共有していて、このような報連相によって学校全体で生徒一人一人を守っているということを学びました。また学級運営においては、担任の先生に代わって朝と帰りの会を任されたのですが、初めは必要な連絡をしっかりと伝えられるか不安で、「連絡を伝える」ことしかできませんでした。しかし担任の先生から「朝や帰りの少しの時間も、生徒と関わることでできる大切な時間」だということや「生徒が今日一日、そして明日も来週も頑張ろうと思える言葉を

伝えるようにしている」ということを教えていただき、これまで自分のことに必死になってしまっていたことに気づきました。生徒と関われる時間は限られている分、少しの時間でも積極的に関わることで、生徒との信頼関係を築いていけるということを学びました。実習期間中に一度、警報が出て臨時休校になった際には、ICT を使った連絡の仕方や先生同士での連絡など、臨時の対応の仕方を学ぶことができました。

④実習全体を通して、教師の責任をととても実感しました。実習期間中は授業だけでなく、学級運営や校外学習にも参加させていただいて生徒とたくさん交流する中で、生徒に話す言葉一つも、生徒にとっては良くも悪くも届いてしまうことがあることを学び、教師としての言葉や行動の重みを実感しました。また生徒に常に目を配り、生徒の安心安全を守るためにも、教師の責任を感じました。実習では、初めの頃は自分に自信が持てず、教壇に立つだけですごく緊張してしまったり、生徒の前に立つことに不安な気持ちが大きかったのですが、不安そうな先生に生徒も信頼を置けないし、生徒にも不安な気持ちを与えてしまうことに繋がることに気づき、しっかりと教師としての自覚を持って生徒に接することができました。授業実践や研究授業を通して先生方からたくさんのフィードバックをいただき、自分では気付かなかった課題や改善点を知ることができたのと同時に自分の良い所にも気付くことができて、とても貴重な経験になりました。生徒から「先生」とたくさん頼ってもらえたり、「授業が楽しい」などの言葉をもらえたことはとても自信に繋がったし、教師のやりがいを実感することができました。この 3 週間で先生方や生徒からたくさんのことを学ぶことができ、とても貴重な時間を過ごすことができたため、学ぶことを活かして生徒のことを第一に考えられる、私の理想とする教師になりたいと、改めて思いました。